

第27号

郡山地区社会福祉協議会

会長 庄子誠喜

民生委員・福祉委員合同研修

民生委員 庄子 千佳子

令和四年八月二十七日、郡山コミュニティセンターにて、郡山社協主催の研修会が開催されました。講師は、東北福祉大学准教授 村山くみ先生で、テーマは「つながりを切らさないために」～いま地域にできること～でした。

現在子育てをしていてつらいと感じている人が半数近くいる（二〇一九年意識調査）ことを知りました。SNS（交流サイト）で誰かとつながっている人はいても、身近に頼れる人がいないのです。

また、地域で生活していく上で心配事のアンケート結果では、どの世帯でも「大規模災害が起きたときどう対応したらよいかわからない」「介護が必要な家族をいつまでも家庭で介護を続ける自信がない」「病気や事故で不自由になったとき頼れる人が身近にいない」などの不安を感じている人が多くいることが分かりました。

年々近所付き合いが減少し、近隣での支え合い経験も少なくなってきたのが現実のようです。

そこで、今回のテーマ「つながりを切らさないために」どのように意識して行動すれば良いかを先生に教えていただきました。



「遠くの親戚より近くの他人」（遠方に居る親戚よりも近隣に居る他人のほうが頼りになる）ということわざがあるように、同じ地域に住む人たちとお互いの状況を共有し、「困っていることに気づき」互いに助け合う気持ちを持つ事が大切です。

とは言われても、「毎日忙しいので何も役に立てることはない」また「親切のつもりが行動が、お節介、迷惑になってしまうのでは」とためらってしまうこともあると思います。

困り事は人それぞれ、できることも人それぞれなので、無理なく出来ることを出来る範囲で。例えば「話を聞くだけ」「その日だけなら」「ゴミ出しぐらいなら」など、ほんの少しの手助けが、困ったと

《「えだまめ子育てサロン」支援》



子育て中のお母さん達が交流するサロンです。支援のクラブ員や民生委員が、子供のお相手をし、その間、お母さん同士が会話を楽しみ、保健師も参加していて、子育ての悩みをアドバイスされる等、有意義な時間を過ごしています。

社協では、本格的な美味しいコーヒーや茶菓を提供して交流を支援し支えています。

子供6名・大人17名参加した、令和4年11月1日の東郡山コミセン開催の例会から。

きに助け合いが生まれ、同じ地域で暮らす人々のつながりを築き、お互いの支え合いが生まれる。

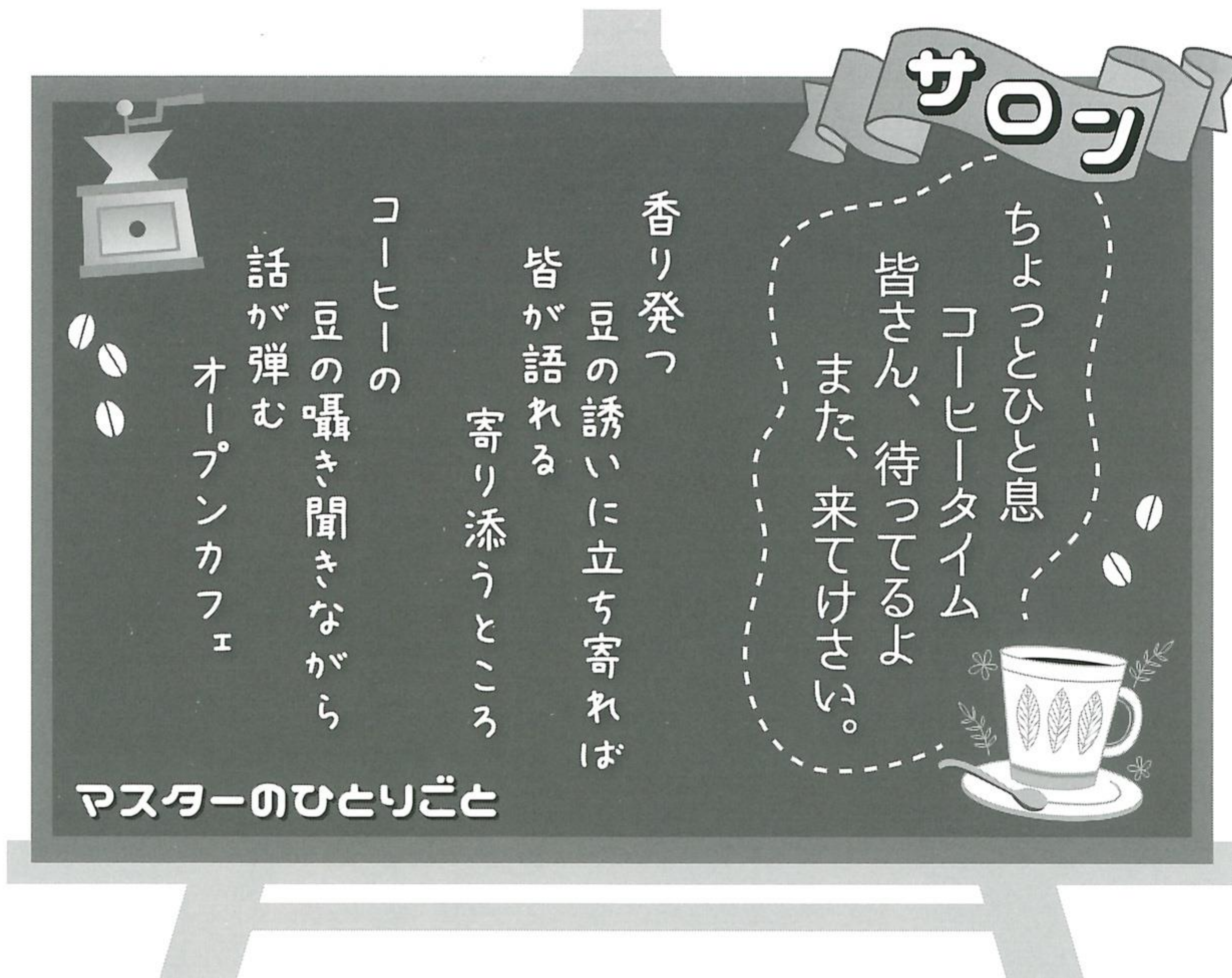
民生委員や福祉委員の役割を持たなくとも、誰でも、住んでいる地域で支え合うことが大切だと改めて認識できた研修会でした。

郡山コミセン カフェ

十月十三日、午前、三年ぶりにオープンカフェを開催しました。場所は郡山コミセン広間で、近隣の住民、民生委員福祉委員、社協役員等二十名程の方々が参集いただきました。

開催にあたり、感染対策として、体温測定手指の消毒、十分な換気と会話中のマスク着用を徹底しました。

一見、窮屈そうな集まりでも、美味しいコーヒーとおしゃべりで、最高の楽しい時間を過ごせたと感じています。



飯田福祉会館 カフェ

福祉委員 蓑輪茶苗
前嶋房子



3/4 飯田オープンカフェ

三月四日、飯田福祉会館においてオープンカフェを開催しました。コロナ禍になってから飯田町内会としてははじめてのサロンでした。マスク着用など、感染防止対策に気をつけて実施しました。幸い天候に恵まれ、春を思わせるような温かい陽射しの中、開始時間を待ちかねた様にたくさんの方が足を運んで下さいました。コーヒーの良い香りと和やかな雰囲気のおかげで、皆さん笑顔でお話も弾み、久々の団らんを楽しんでいた様子でした。どんな時も人とひと

とのつながりや、ぬくもりの大切さを改めて感じました。
後日、皆様から「次も楽しみにしているからよろしくお願いします」という声を聞き、大変うれしく、今後につなげていきたいと強く感じました。





10/13 郡山コミセンオープンカフェ

あいあいサロン 在家

郡山在家町内会では、敬老祝賀のお祝いの意味も兼ねて9月11日、郡山コミセンで開催しました。もちろん、検温や手洗マスク着用、三密を避けて、折り紙、童謡歌唱、ビンゴ大会で盛り上がり、笑顔で再会を誓い散会しました。

下半期は、2月21日(火)、郡山コミセンで、老人クラブ(若寿会)と合同で開催しました。今回は、「グリーンフィルアンサンブル」のギター演奏を聴いて皆さんの目がキラキラと輝き、若返った一時でした。その後、町内会長あいさつやゲーム、軽い体操で体をほぐし、会を閉じました。「いつも元気をもらってアリガトー」と、スタッフに感謝のあいさつを交わし笑顔で帰りました。

(福祉委員 赤井澤 イサ子、庄子 マリコ)



一斉訪問

一人暮らし高齢者

福祉委員 佐藤 京子
森 トシ子

東大野田町内会は、三月六日、一人暮らし高齢者を見守り近況を聞くために一斉訪問を行いました。三月六日、お赤飯と、桜もちを手土産に……。突然の訪問だったため、「思いがけないプレゼントですね」と、皆さん喜んでくれました。それぞれ、近況を訪ねながら皆さん元気に過ごしていることを確認できて安心しました。早くコロナが終息して、以前のようなサロンを開催できることを願いこれからは暖かく見守りを続けたいと思います。

令和5年度 主な事業

- 5月中旬 総会
- 5～3月 サロン(オープンカフェ)
- 6～9月 あいあいサロン(上半期)
- 9月 ふれあい昼食会
- 7月 民生委員・福祉委員合同研修
- 11月 移動研修
- 2月 ふれあい昼食会
- 3月 福祉のひろば発行
- 10～3月 あいあいサロン(下半期)

随時開催：役員会、福祉委員会

随時参加：仙台市・太白区、会議・研修



令和五年二月、従来、一人暮らし高齢者を対象とした「ふれあい昼食会」の内容を変更して「お楽しみ会」として四年ぶりに日赤奉仕団と共催して開催しました。

内容は、紙芝居とギター演奏で、何れもアマチュアですが、プロと言えるほどの実力で参加者皆さんが聞き入り、大きな感動を与える演技・演奏でした。

七十名ほどの参加者は久々の対面に感激し旧交を温めていました。市販のお弁当を手に再会を誓って、散会しました。

お楽しみ会

福祉委員移動研修

理事 永 山 美 紀

三年ぶりに開催し、役員・福祉委員一八名で会津方面へ行きました。

野口英世記念館とその隣に新しくオープンした感染症ミュージアムの見学では、医療の発達は脈々と連なる研究者の努力が礎にあって現代に至っていることをあらためて考える機会を得



ました。

また、各地の小中学生が次々と大型バスで到着する様子を見て「感染症の切り札はワクチン」というミュージアムの展示どおりワクチン接種によって新型コロナウイルスによる規制が緩和されつつあることを実感しました。

昼食は会津若松市内七日町の旧海産物問屋「渋川問屋」で「こづゆ」などさまざまな会津の郷土料理を味わいました。スペース、座席配置など新型コロナウイルスの感染対策をしっかりと取られた会場で感心しました。

その後、鶴ヶ城は内部が改修中のため地元のボランティアガイドの説明を受けて、石垣や外観を見学しました。

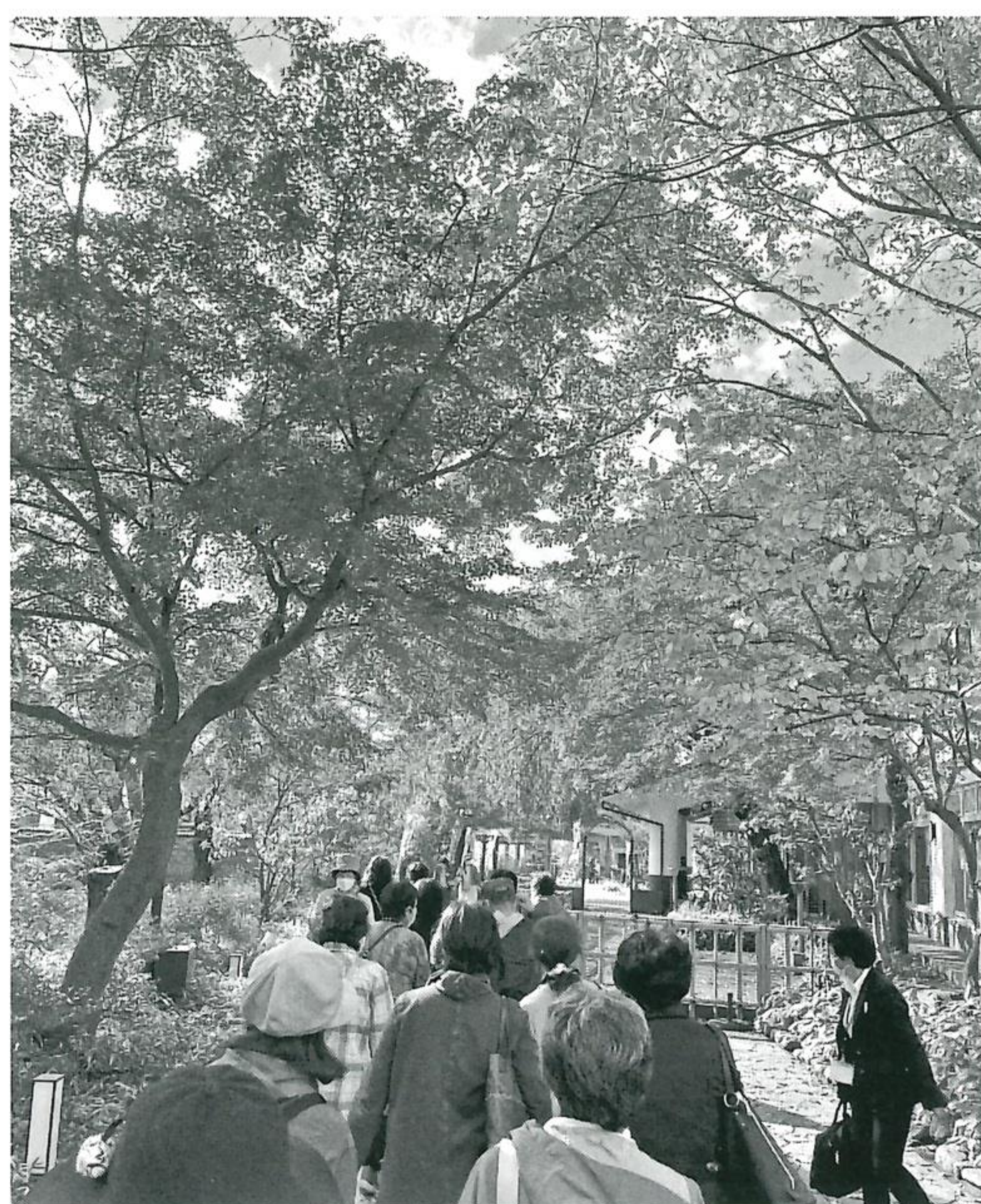
昨今の情勢から社協は総会をはじめ、様々な行事は中止せざるを得ませんでした。福祉委員もお互いに会う機会が少なくなり、新任の方はもちろん皆が活動について困惑する時期もありました。

今回の移動研修でも食事は黙食、バス車内では会話なしという状況でしたが、幸いにも天気



に恵まれ散策しながら交流する時間があり、福祉委員の活動について十分に情報交換ができました。

秋晴れの日にみんなで遠出をすることは思いのほか楽しく、コロナ以前の生活に早く戻りたいと願いつつ、今後の活動の糧になりました。

**編集後記**

新型コロナウイルスは全世界に脅威をもたらしました。国内においても八波に渡って影響があり、地域社会における活動に重大な影響がありました。今後も油断大敵です。

今後は「正しく恐れ、正しい認識」で克服してまいりましょう。

第二十七号をお届けします。